

經典餘師

書經

一

11
1029
23

口 11
1029
卷 23

讚岐百丰先生述

經典

餘師書經之部

卷六

浪華書林

稱觥堂
南華堂
積玉圃
文金堂

合刺

餘師題辭



經籍傳于天朝。千有

五百年于今矣。歷世之

久。治亂之際。雖有道之

污隆。學之興廢。其所漸

經典餘師書經卷之六

進被及。遂至海隅養老。
臧獲兒女。口唱仁義忠
孝之名。雖然。服器殊名。
言語不通。是以讀書數
年。然且賴師之口說。終

織其大義。而其間敏捷
英資。精數洽聞。拔華者
亦僅之有焉。然則如此
其難乎。曰否。夫天地之
間。无有无君臣父子之

鄉既有父兄父子斯有
仁義忠孝之道乃即聖
經所載之物是也。後其
書而知其義何難之有。
蓋知之易唯其行之

之難。而待賦文章裁作
之事。固不與焉。余故曰。
雖巧於詩賦。无害為小
人。雖拙於文章。无害為
君子。豈不然乎。余嘗以

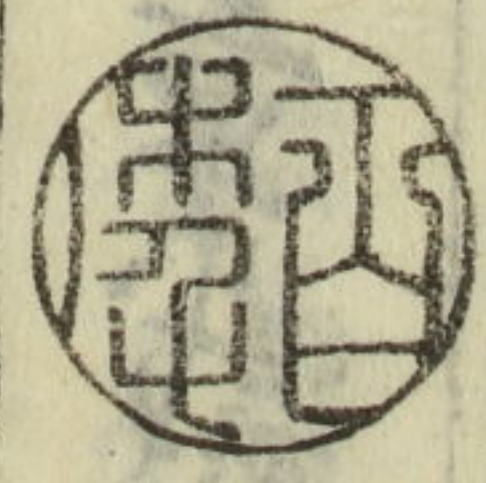
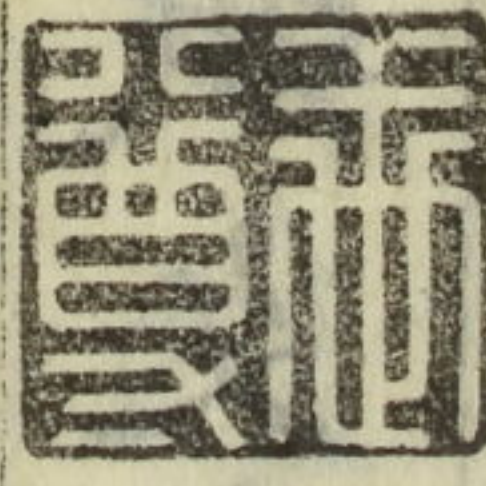
國字解數經今年尚書

刺成矣由題斯言于卷

端

戊午之春

玉澤金吉主撰



尚書

虞書

堯典

曰若稽古の帝堯
と統音うつに曰く
放勲欽明文思
安安允恭克讓す

四表に光被し上
下于格る克俊德
と明うて以て
九旗と親しむ

經典餘師

尚書

尚と上と字の義おふ上代の帝より
の吏と書まふ一ふふの義ふ

虞書

上代の初乃みうとの名を堯帝とて大
聖人ありその作法と第二代虞の代に記す書之

堯典

父帝の初代堯帝たり天下を治る
多し典とて示し

曰若稽古帝堯曰放勲欽明文思安

安允恭克讓

曰若稽古の帝のあつて
堯帝は御徳の勲いつら

放勲も故ぬ所なり欽事と明うて政に文
く思慮ふくく一萬事安んじに高きうい
らうと允に恭く一と身と心く
一と克人へげと有るに君たりと

被四表格于上下

克明俊德以親九

旗

堯の御徳乃光つて四海に表まふと身に被ひね
ののく俊御徳を以て九旗のころふく親しむ

經典餘師

九族既睦平章百姓昭明協和
萬邦黎民於變時雍

乃命羲和欽若昊天曆象日月星辰
敬授人時

九族既睦平章百姓昭明協和
萬邦黎民於變時雍
乃命羲和欽若昊天曆象日月星辰
敬授人時
此以下國家と治むるに能徳の
乃義と示し羲和氏は子よ四人の賢者なりて天
文に通じ昊天の象をかんぐ月日星辰の辰と曆を四
季のめぐりに若うて農業の時節を授けたり
徳々君の農業はこころをまわす官人となり

分命羲仲宅嵎夷日暘谷寅賓出日
平秩東作日中星鳥以殷仲春厥民
折鳥獸孳尾

申命羲叔宅南交平秩南訛敬致日
永星火以正仲夏厥民因鳥獸希草

分命羲仲宅嵎夷日暘谷寅賓出日
平秩東作日中星鳥以殷仲春厥民
折鳥獸孳尾
嵎夷乃暘谷の東方なり
日中星鳥日中星鳥の南方なり
以殷仲春仲春の初日の出るをうけと寅て東作乃うつけは
秩と順く平らかなる春の日乃中と知
折鳥獸鳥獸の初日の出るをうけと寅て東作乃うつけは
孳尾朱鳥星の南方にありて仲春の中
申命羲叔宅南交平秩南訛敬致日
永星火以正仲夏厥民因鳥獸希草
南交南交の南方にありて仲夏の中
永星火以正仲夏永星火の南方にありて仲夏の中
鳥獸希草鳥獸の南方にありて仲夏の中

夏と正と厥民
因て鳥獸を希
草と

分て和仲に命
西宅一む昧谷

曰寅んぐ納日
饒る西成と平秩

宵の中一星虚
至以仲秋と殷

厥民を夷うに鳥
獸毛毼と

申て和叔に命
朔方に宅一む幽

都と曰朔易と平

第二義叔に命て夏の官と申て南の国乃
交り宅一む民と訛言お一へをかこ一その
功と致と此時と仲夏の中一む日永と六十
刻余かりと一む南方に火星いつく鳥獸毛毼

希一む草と ○分命和仲宅西曰昧谷

寅饒納日平秩西成宵中星虚以殷

仲秋厥民夷鳥獸毛毼 又和仲は命て

谷一む土地につり宅一む納日の命をうんぐ
仲秋の時節をた一む五穀の西成と一む秋をうんぐ

一む人此と一む宵も五十刻ふと一む益と中半あり
くれ一む南といつる星と虚宿なるを暑も一むく一む

て人乃氣と夷なるを鳥けゆと ○申命和叔

宅朔方曰幽都平在朔易日短星昴

在と日短と星
昴あり以て仲冬

と正す厥民を夷
鳥獸毛毼と

帝の曰く咨汝義
暨ハ和蕃三百有六

旬有六日閏月と以
て四時を定め歳と

成す允は百工と釐
て庶績咸熙と

帝曰く疇咨時
若う人を登用いん

放齊と曰胤子朱

以正仲冬厥民夷鳥獸毛毼 又申て和

の政は平在一む此時と仲冬の正中に日短

うく昴が一む南といはるるを定め

く鳥けゆと一む毛もあふるに一む毛もあふる

帝曰咨汝義暨ハ和蕃三百有六旬有

六日以閏月定四時成歳允釐百工

庶績咸熙 堯帝と一む一む二年の一蕃と一む

たす五日一む一む申と閏のすを以て春夏秋
冬の時節をゆつり成と一む一む百工と釐
て庶績咸熙と一む一む一む一む一む一む
帝曰疇咨時若う人を登用いん
放齊と曰胤子朱
時登庸放齊曰胤子朱啓明帝曰吁

啓明ふ至帝の曰く
吁囂訟あり可なり
らん乎

帝の曰く時咨予が
采に若らん驩兜
が曰く都共工方
鳩て功を僭と帝
の曰く吁静ふる
に言庸ろふ違象
ち恭しく天を滔る

帝の曰く咨四岳
湯湯る洪水方に

囂訟可乎

帝の曰く時咨予が
采に若らん驩兜
が曰く都共工方
鳩て功を僭と帝
の曰く吁静ふる
に言庸ろふ違象
ち恭しく天を滔る

兕曰都共工方鳩僭功帝曰吁静言
庸違象恭滔天

帝曰咨四岳湯湯洪水方割蕩蕩懷

山襄陵浩浩滔天下民其咨有能俾

又兕曰於鯀哉帝曰吁咈哉方命圯

旗岳曰异哉諫可乃已帝曰徃欽哉

九載績用弗成

帝の曰く時咨予が
采に若らん驩兜
が曰く都共工方
鳩て功を僭と帝
の曰く吁静ふる
に言庸ろふ違象
ち恭しく天を滔る

經典餘師

書經卷一

四

帝の曰く咨四岳
朕位に在る七十
載汝能命庸
朕位を異ん岳
曰く否徳あり帝
位と忝し

成就
○帝曰咨四岳朕在位七十
載汝能庸命異朕位岳曰否徳忝帝
位
七十載の間より命と庸を失ふは朕の位を
異にするに似たり四岳の人々も天子の位を
失ふに似たりとて奉るに忝と天子にのみ
断奉るに似たり

曰く明と明と
側陋と揚と師帝
錫て曰く鰥有下
に在震舜と曰帝
乃曰兪予も聞
王如何岳の曰く瞽
子父の顔なるを母
瞽も象も傲る

○曰明明揚側陋師錫帝
曰有鰥在下曰虞舜帝曰兪予聞如
何岳曰瞽子父頑母嚚象傲克諧以
孝烝烝乂不格姦
乃又のめふふく明德
乃人を揚めふふく陋と
側よりよりくも賢人よりくも明よりくも求む
をよりよりくも師よりくも臣下よりくも錫せ

克諧に孝と以て
一烝と一て又
て姦に格不

人あま父を頑瞽のめく母を嚚一人の弟よりく
傲放めくあふ舜いより克孝行をつくりておやと
の間と諧いよりくも善心は烝々て心のあふく

帝の曰く我其誠
て厥二女を刑
觀二女を嬀汭于
贅降と震于嬀
帝の曰く欽哉

○帝曰我其誠哉女子時
觀厥刑于二女贅降二女于嬀汭嬀
于虞帝曰欽哉
帝のめく兪予も聞
およりく誠よりくも
刑よりくも觀よりくもか乃姦よりくも
居よりくも嬀汭よりくも人形よりくも嬀よりくも
刑よりくも觀よりくもか乃姦よりくも

舜典
曰若し古の帝舜
と誓するに曰重華

舜典
第二代舜帝は法とあること
曰若し誓古帝舜曰重華協于帝清哲

帝于協濟哲文明
溫恭允塞玄德升
聞乃乃命命
に位と以と慎ん
て五典を徴ふに
五典克従ふ

文明溫恭允塞玄德升聞乃命以位
慎徽五典五典克従

帝の徳れりたる華と重なり義あり
温く徳乃明文く一々の温く恭に仁心
に塞く一々の身のいけい盛山乃の鳩淵の川
命に依て堯帝天子乃位を以て
は五の典を徴ふに天子乃位を以て
五乃典の居臣父子夫婦兄弟長者幼年
作法の道あるに天下の人々克て五
典に依るに

百揆に納るる
揆時叙す四門
于賓と四門穆穆

○納于百揆百揆時叙賓于四門四
門穆穆納于大麓列風雷雨弗迷

大麓于納る
烈風雷雨と迷

帝と百揆乃中に納るる百揆天下
乃政務をつとむる百の揆いと行
乃車乃叙すも又賓客
東国西国并南北乃諸侯さん四方の門
入来の天子を敬むる又雨風烈
鳴雷天子を敬むる又大山の
納て樹木あはれ大麓の天下と領
迷るる大麓の天下と領
乃幾乃政の聞見けり国家と雨
鳴るの辞た

○帝曰格汝舜詢事考言

乃言底可績三載汝陟帝位舜讓于

德弗嗣

此帝王乃功其績乃底と天子と

正月一日終文祖
于受璿璣玉衡
在齊肆上帝
于類六宗于
山川于望
羣神に編く

五瑞と輯く月と
既望乃つら日に
四岳羣牧と觀

○正月上日受終于文祖在璿璣玉
衡以齊七政肆類于上帝禋于六宗
望于山川徧于羣神

○輯五瑞既月乃
日觀四岳羣牧班瑞于羣后

瑞と群后于班

歳の二月に東
巡守して岱宗
至望秩と肆東
于望秩と肆東
后を觀し時月と
協の日と正律
度量衡を同
五禮五玉三帛
二生一死の贄を修
め五器と如ふと卒
く乃つて復る

○歳二月東巡守至于岱宗望秩

于山川肆觀東后協時月正日同律

度量衡修五禮五玉三帛二生一死

贄如五器卒乃復

天子天下と巡守
四方の諸
侯伯の方角を
朝觀乃祀
山川乃神祭
何れも中の月
をめぐりて
春三月天子東
國とめぐり代
宗の山に柴と
つた次山川の
祭に望やうと
すけつて望秩
を順ぐの次序
を領曆いす

經卷第一

書錄卷之三

正月 十二牧乃人くは詢咨わしせりふる天子乃
 春すそりおろりふる四方よりさんさん乃岳牧
 さばふしとりて四方其門をわき天下の政吏
 土乃魚り起す

往哉臣下僉申々々い青と司空の官よりいふかきこととせりいりみことと命ふべしとあり

と鼻陶暨に譲る

帝の曰俞汝往哉

帝ていの曰いはく棄すて黎れい民みん饑う阻やり汝なんぢ后ごう稷くわく時とき百穀ひやくこくと播は

て禹と少昊は、
契と皋陶は、
三賢人（ゆづりきれどもつひり禹へこゝまり
て命ぜりし）を
○帝曰。棄黎民阻饑。汝后
稷播時百穀。

帝ていのの曰いはく契けい百ひゃく姓せい

新万五品しんばんごうしん
す汝司徒と作敬そにちとく
んで五教と敷てごきょうとふ
寛に在かんにな

不親五品不遜汝作司徒敬敷五教

帝の曰鼻陶蛮夷夏と犢冠賊姦宄汝士と作五

寛ひろやうようににししめめるるををととののああままししくく　○帝曰。皋陶こうとう。蠻夷ばんい猾くわく夏か。

刑服するに有五服三

就五流宅有五宅
三居惟明之克
允まこと

就五流有宅五宅三居惟明克允と又

帝の曰く疇予工

人々の命にすかれておられたことを、おまへと
 帝曰

に若んあづからんいふ僉いふ曰いふ垂あつちぬ
るあつち裁帝さいていの曰いふくあつち俞あつち

疇^カ若^シ予^カ工^ニ僉^ニ曰^ニ垂^ニ哉^ニ帝^ニ曰^ニ俞^リ咨^ニ垂^ニ汝^ニ

啓垂汝共工とふ
 虫拜秘音首一

共工垂拜稽首讓于殳斨暨伯與帝

て又新暨伯与子
讓る帝の曰く命

曰。俞リ往テ哉。汝ニ諧ス
みうじ又六工官の司
たあ命を

往哉汝諧ゆかんるをちやうげう

垂も受新伯との三人を引取りて去るなり

石と拊ふ百獸率舞

帝みかどの曰いく龍朕りゆうてん謬みう

説せつ行ぎやうと殄てん朕てん師しと

震驚しやうけいとと聖せい

汝なんぢ命めいと納な言ごんと

作さく風ふう朕てん命めいと

出納しゅつなつして惟ただ允いんされ

帝みかどの曰いく咨そ汝なんぢ二

十有二人じゅうににん欽きんま

哉や惟ただ時とき天功てんこうと亮りやう

三載さんざい績せきと考かうへ三

考幽明かうゆうめいと黜陟ちつしつと

考幽明かうゆうめいと黜陟ちつしつと

正ただ人ひとめめくく馨かほとと擊うとと帝みかど曰いく龍朕りゆうてん謬みう

聖せい説せつ行ぎやうと震驚しやうけい朕てん師し命めい汝なんぢ作さく納な言ごんと

夙しやく夜や出納しゅつなつ朕てん命めい惟ただ允いんと

下した乃すなは令しやう出しゅつとと納な言ごんと

人ひとと驚おどろくく命めいとと允いんとと帝みかど曰いく咨そ汝なんぢ二

十有二人じゅうににん欽きんま

亮りやう天功てんこう三載さんざい績せき三考さんかう黜陟ちつしつ幽明ゆうめい度た

績せき咸熙かんき分ぶん北きた三苗さんめう

て度績咸熙たせきかんきあり

三苗さんめうと分ぶん北きたす

舜生しゆんせいとて二十徵じゅうにちぎ

庸ようとて二十位じゅうにゐ

陟しつ方はうとて乃すなはち

死しす

大禹謨たいうも

曰いく若ごと古この大禹たいうと

書經卷之一

十一

舜生しゆんせいとて二十徵じゅうにちぎ

庸ようとて二十位じゅうにゐ

陟しつ方はうとて乃すなはち

死しす

大禹謨たいうも

曰いく若ごと古この大禹たいうと

命四海于敷祗大禹承于帝承

曰后克后厥后臣克臣厥臣政政乃乃

黎民敏黎民德德

帝帝曰帝俞俞允允若若

茲茲若若嘉言嘉言伏伏攸攸

罔野罔野遺賢遺賢萬萬邦邦咸咸寧寧

衆于誓衆于誓已已舍舍

無無虐虐不不困困窮窮

承于帝大禹

曰后克后厥后臣克臣厥臣政政乃乃

黎民敏黎民德德

帝帝曰帝俞俞允允若若

茲茲若若嘉言嘉言伏伏攸攸

罔野罔野遺賢遺賢萬萬邦邦咸咸寧寧

衆于誓衆于誓已已舍舍

無無虐虐不不困困窮窮

廢不惟帝時克

益曰都帝德

廣運乃聖乃

神乃武乃

文皇天眷命

奄有四海有

天下君為

禹曰迪惠

吉逆凶惟影

時克

益曰都帝德廣運乃

神乃武乃文皇天眷命奄有四海有天下君為

禹曰迪惠吉逆凶惟影響

海為天下君

聖德神明之妙

皇天之命

禹曰惠迪吉逆凶惟影響

身之凶吉

之休と用てし之
と董に威と用て
之と勸し
九歌と以て
壞らるゝ勿ら俾

帝の曰く俞地平
ぎ天成六府三車
允治萬世永
く頼ん時乃の功

帝の曰く格汝禹
朕帝位宅と三
十有三載耄期
して勤于倦
汝惟怠不朕師と

叙九叙惟歌戒之用休董之用威勸
之以九歌俾勿壞

○帝曰俞地平天成六府三
車允治萬世永頼時乃功

○帝曰格汝禹朕宅帝
位三十有三載耄期倦于勤汝惟不

總禹曰朕德克
すゝと罔民依不
皋陶邁て徳と種
徳乃ら降黎民
之に懷

帝念哉茲と念と
茲在茲と釋て
茲在茲と名言
すゝに茲在茲と
茲に出るも茲在
惟帝功と念

怠總朕師禹曰朕徳罔克民不依皋
陶邁種徳徳乃降黎民懷之

○帝念哉念茲在茲釋茲
在茲名言茲在茲允出茲在茲惟帝

念功
念功

帝の曰く皋陶
惟茲臣庶予正
之于或罔汝
士と作五刑于
明に以て治
教と弼予と治
于期刑と刑無
于期民中協
時乃の功懋哉

○帝曰
皋陶惟茲臣庶罔或于予正汝作士
明于五刑以弼五教期于予治刑期
于無刑民協于中時乃功懋哉
皋陶の臣下民卿士も正事と于そのくさ
やうに汝らもとて前よりもつて五刑の
法を明にせよ民といふ人々五教を守り
傳ちあひて五教を國の治まゝに期て
この法をまゝにせよ此より民の心中
皋陶の功懋をうたふ

皋陶曰帝德愆
臨下以簡御衆
以て衆と御す
小寛を以て
罰ハ嗣及之弗
賞ハ世于延過
ちと宥るハ大
無故と刑する
小と無罪の疑
しき惟輕功
の疑しき惟重
其辜ハ不
殺人與寧不
經失せん好生
之德民心洽
茲と用て有司と

○皋陶曰帝德罔愆臨下以簡御衆
以寛罰弗及嗣賞延于世宥過無大
刑故無小罪疑惟輕功疑惟重與其
殺不辜寧失不經好生之德洽于民
心茲用不犯于有司
帝の御德はあひま
後思ふに及ばぬ
簡といふこと
き事とて輕
かりとて國
天下乃事
此ニツと以
下衆を臨御
又罰の
あま當人
をりて嗣
乃子とて
とら世々
その例と
延ふとて
おひひ
とて出
つて大
なま
宥
とて疑
りし
輕
とて

犯之不

帝曰予俾之
欲從之以此
治四方之風動
するハ惟乃の休

帝曰來禹降
水予と傲む允
成功と成惟汝
の賢克邦于勤
克家于儉一自

功をさしと疑ひしきと動さるゝいひて賞りしと
右の功すくたつゝ賞れしといひ過らざる
不幸のものと殺りし勝るゝのありたり全く
民の生やうと好まざる御徳の民乃び治す
はくは茲用ふとていふあり有司とていふと罪を
犯りしとて
○帝曰俾予從欲以治四
方風動惟乃之休
帝のうゝ當時四方
治す民もやう

○帝曰來禹降水傲予成允成功惟
汝賢克勤于邦克儉于家不自滿假
惟汝賢
帝より禹とめし來しとていふ
のうゝ天下降水ありといふ民

滿假不惟汝の
賢

汝惟矜不天下
汝與能と爭ふ
莫汝惟伐不天下
汝與功と爭ふ
莫予乃の徳と懋
たり乃の不
績と嘉す

天之曆數汝の躬
二在汝終一元后
一陸と人心惟危
道心惟微惟精惟
一允一厥中と

五穀でささるゝ全く天より予と傲むとて
汝と允とつくせし降水もとまりて功と成
そのへりつゝ儉約と勤るゝ国家とおふゝ
と假さず自滿せしとて惟なんは賢徳なり
○汝惟不矜天下莫與汝爭能汝
惟不伐天下莫與汝爭功予懋乃徳
嘉乃不績
汝の功をほむむりのふく汝と爭ふのあり
予えよりなんは徳乃び不たる績よくんは嘉す

○天之曆數在汝躬汝終陟
元后人心惟危道心惟微惟精惟一
允執厥中
今や天運の曆數もふんは躬に
つゝなまといひ終るゝ位に陟て天下の

執しやく無稽之言聽勿なほ弗詢之謀庸なほ勿なほ

元后そなたとて人ひとの欲ほつ心こころをなほやとてなほ道みちをなほ微こまやとてなほ中なかつとてなほ執しやく○無稽之言勿聽弗詢之謀なほ

勿庸なほ

○無稽之言勿聽弗詢之謀なほ

愛あい可よ君きみ非ひ非ひ或ある可よ民たみ非ひ非ひ衆しゆ元もと后ご非ひ非ひ何いかとと戴たい衆しゆ非ひ與よ邦はう守しう固こ欽きん哉や

○可愛非君可畏非民衆非元后何なほ戴后非衆罔與守邦欽哉なほ

乃なほ有あ位ゐ慎しん其その願ねが可よ敬けい修しゆ四し海かい困く窮きやう天てん祿ろく永えい

○慎乃有位なほ敬修其可願四海困窮天祿永終惟なほ

終しゆう惟しん口くち好こう出し戎じゆう與よ興きやう寸すん朕しん言ご再また比ひ不なほ

○口出好興我朕言不再なほ

禹う曰い功こう臣しんとと枚まいトと惟しん吉き之の從したがかい

○禹曰枚ト功臣惟吉之從なほ

帝てい曰い禹う官くわん占せん惟しん先せん志しとと蔽へいめめ昆こん元げん龜き命めい寸すん朕しん志しとと先せん定てい謀ぼう會かい同どう鬼き神しん

○帝曰禹官占惟先蔽志昆命元龜なほ朕志先定詢謀會同鬼神其依龜筮なほ協從ト不習吉なほ

其依龜筮協從卜吉と習ふ

禹拜稽首固辭す帝の曰母惟汝諧の

正月朔旦命と神宗于受百官と率い帝之初の若

帝の曰咨禹惟時有苗率か弗汝但て征せよ

禹乃ち群后と會

蔽めその昆吉と龜卜の朕が志魁定まらるゝその人衆人詢謀と食く同意たり鬼神も

依順の龜筮と協從まらるゝ禹の法吉の習ふ待ぬめく

首固辭帝曰母惟汝諧禹拜稽首固辭

まの帝さへ入る再三辭退とる正月朔旦

且受命于神宗率百官若帝之初正月朔旦

神且終る舜帝の攝政と命と神宗と文祖帝の御廟と受る百官と率い舜帝乃終る

率汝但征帝曰帝曰咨禹惟時有苗弗

率汝但征命は率はる禹乃會群后誓

禹乃會群后誓

師于誓て曰濟

濟有衆咸朕

命と聽蠢茲有

有苗昏迷不恭侮

慢自ら賢と道

子野と在民と

降す肆予爾衆

士と以て辭と奉

罪と伐爾尚く

乃の心カと一

其克勲有

于師曰濟濟有衆咸聽朕命蠢茲有

苗昏迷不恭侮慢自賢反道敗德君

子在野小人在位民棄不保天降之

咎肆予以爾衆士奉辭伐罪爾尚一

乃心カ其克有勲禹命は會する師の后群を

の軍法乃誓とて曰く今濟有衆

蠢茲有苗乃の德と德と昏く迷とて不恭

たり自の身と賢と人とは侮慢とて道と反と

德と敗る民百姓を棄る保ふとて天子の

野にす小人の位に立て權威とて天子の

外口とまはるその依る予は衆士とて

天子の命と奉る罪と辭とて征伐とる

益禹于贊て曰く

惟徳天と動す遠

満損と招き謙益

帝初歴山于田于往日

禹乃乃とて命を

逆命

益贊于禹曰惟徳動天無遠弗届

満招損謙受益時乃天道

帝初

于歴山往于田日號泣于旻天于父

母負罪引慝祗載見瞽瞍夢夢齊慄

瞽亦允若至誠感神矧兹有苗

誠神と感矧や

道自然と徳乃有と説く

禹拜昌言曰兪班師振旅

帝乃誕敷文徳舞于羽于兩階七旬

有苗格

有苗格

皋陶曰都亦行
九德有亦
其人有德
乃言曰曰采
采載

禹曰何皋陶曰
寬而栗柔而
立愿而恭亂
而敬擾而毅直
而溫簡而廉
剛而塞彊而
義彰厥有常
吉哉

人追放一土地と遷りていざ乃や
言と巧と色と令飾とみりて孔とたり
○皋陶曰都亦行有九德

亦言其人有德乃言曰載采采
凡と人乃行と九つの德行ありと人の自徳
一と意と品とを彼采といふ此采といふ
と察と時とを載行の品と
○禹曰何

皋陶曰寬而栗柔而立愿而恭亂而
敬擾而毅直而溫簡而廉剛而塞彊
而義彰厥有常吉哉

禹九德の品を
如何と問ふ因
而義彰厥有常吉哉

皋陶曰寬而栗柔而立愿而恭亂而
敬擾而毅直而溫簡而廉剛而塞彊
而義彰厥有常吉哉

日三德宣風
夜浚明家有
有

日宣三德夙夜浚明有家日
宣三德と宣風と夜浚明と有家と

曰嚴然

嚴

右九つの徳の内、三の徳と宣ふ、風夜とれと以て人と浚り言行と明白とせ、一家の内

六徳と祗敬、采と亮、邦と

○祗敬六徳亮采有

有つ翁受敷施

邦翁受敷施九徳咸事俊又在官百

九徳咸事俊

又官在百僚師

僚師師百工惟時撫于五辰庶績其

師百工惟時五

辰于撫いて庶績

疑

其疑

三徳六徳と翁受多天下敷施、人々威九徳と事行い徳乃俊人々以て官より

け百僚人たうい師々とちやうと、け百の

工、時の宜と、五辰とい四季と土

五、農業者の時、耕の時とをまらへるやう

り、以て、今条と、く、の、人、と、天

下の要務庶績あり、何と、疑

無教

逸欲有邦競競業業

教無と競々業々

逸欲有邦競競業業一日二日萬幾

一日二日萬幾

無曠庶官天工人其代之

官と曠する無れ

天工人其代之

逸、天下の政、一日二日乃内、数万、

この幾、天道乃御、二、代、人物、徳、

ふ人と庶、の官人、徳、世、益、

の、役人、より、上、り、立、つ、官、

曠、空、

○天叙有典勅我五典

五惇哉

天、然、志、ん、人、有、典、五、乃、叙、

五、乃、典、と、い、父、子、君、臣、夫、婦、長、幼、明、友、の、道、

○天秩有

禮自我五禮有庸哉

天有禮と秩す我

五礼と自て庸有

寅とらととら同とら恭とらと
協とら和とら衷とらととら哉とら

此乃通^とり依^よ國家^{こくが}の作法^{さくさ}立^たてし^し五^い上^{じやう}も述^のる
 公侯^{こうこう}伯子男^{はくしなん}國^{くに}の守^{まも}り御位^{ごゐ}つゝふ^ふと人無^い法の者^{もの}
 盜賊^{どくさく}ホ乃^のなんざち^ちつゝ^つ萬^ま民^{みん}安堵^{あんどう}ち^ちり^りと^とき^き
 五^ご礼^{らい}を吉凶^{きちきゆう}賓^{ひん}軍^{ぐん}嘉^かと^とい^いつ^つこ^こ乃^のと前^{まへ}出^いし^しり

天有德_{とく}命_{めい}ず五_ご章_{しやう}服_{ふく}五_ご章_{しやう}哉_や

之恭之誠くまふ上下衆
 うらとけてやうとうへい
 ○天命有

德五服五章哉

天より仁徳の君とくよの
守とたうも衣服冠弁五

天有罪と討す五
刑五用たる哉

五ノ位いづこも章りやううくくく
実じつも威いなりて猛もううくくや ○天討有罪

政事懋哉懋哉

天子堯ハルのころと

天の聰明我民

道乃御意とて施行す
天恩月自茂

天聰明自我

自聰明天の明畏
我民は自明威上

民聰明天明畏自我民明威達于上

下于達す敬ん
哉有土

[illegible]

この事と天子のつとむる民よりて見聞をうけし
 つて上り立ち人君の行を天常よりかんぎて天の明
 威乃むげくして賞罰の畏むることこのやう此ゆへ
 人君の身の尤過にれど下民よりして上天と違ふ
 とく土と有る君を畏敬まつて戒むるを

臯陶曰朕言惠こゝろ也こゝろ

○
皋陶曰朕言惠可底行禹曰俞乃

言底可績アル臬陶曰予未有知思曰ニ贊

贊襄哉（オウサマ） 臯陶又曰（オウタウマタハトク） 今朕のつひつる言（イマニハオウサマノツヒツルコトヲ） 民を恵（オウサマ）ふこと（オウサマ）の政事（オウサマノセイジ）は底行（ソコヨク）べし

思哉しんざい
 賛さん
 禹うの多おほくくとと人ひと命いのちととありあり之これ乃すなはちち乃すなはちち言いひひてて

糸貝食自

書卷之十一

三

思慮とはくさひありくを君よりかゝ賛々奉
まゝうへて是事とばくが裏をくくたるを

益稷

帝二い曰きふ來きふ禹きふ汝きふ也きふ
亦も昌や言や也や禹や拜や

帝曰來禹汝亦昌言禹拜曰都帝予
何言予思日孜孜

致ツキと思おもふ

皋陶曰吁如何禹
曰洪水天下爲

○臯陶曰吁。如何。禹曰。

浩浩山と懷と陵

洪水滔天浩浩懷山襄陵下民昏墊

四載よんざい乗のりて山やまに

予乘四載隨山刊木暨益奏庶鮮食

度は鮮食と奏め

予決九川距四海濬畎澮距川

予九川と決き四
海と距吠澮と濬
へ川と距

天地の力を職し、孜孜とつづふれときんくし、禹こゝて曰
 今天下洪水、民

百姓こころぐく民の憂を憂死せんといふことより依り予て
とせらるゝ水中と往來するや四ノ載りのを作し山は隨
づい樹木を刊し同官たる益と二人ていふ第一万
民は鮮食と施奏あくるいふより九州の大川を決て

糴暨庶の艱食糴食糴と糴審糴奏糴一糴摠糴

ぐく民とくくんと
 ねぐりちあふ
 ○
 賢稷播奏庶艱食

て有無を遷化居

鮮食ヲオ遷ニ有無ヲ化居ス丞ス民乃ハ粒ヲ萬邦ヲ

萬邦又よりと作なづ

作ス又フ皋陶曰。俞師汝昌言。乃二人の庶民

言と師とす

の艱食りのよ鮮食と播奏をばちるこまにうて民の
不自由なとせうりと彼方より有りのと此方へ

經典餘而

書經卷之

三十一

禹曰都帝乃の在位と慎り帝の曰
俞禹曰汝の止と
安し惟幾惟康其
強直なとバ惟動
て不應志と
と後以て昭る
上帝受天其申
命沐と用てと

○禹曰都帝慎乃在位帝曰
俞禹曰安汝止惟幾惟康其強直惟
動不應後志以昭受上帝天其申命
用休
禹又言奉たりて曰天子位は居る人
こと肝要なりとを帝いとさふ
とて人なり君とを帝いとさふ
止と安堵とを帝いとさふ
乃幾と察とを帝いとさふ
へを物乃幾と三考とを帝いとさふ
とて人なり君乃徳と強と直とを帝いとさふ
○帝曰

帝曰吁臣哉
鄰哉哉鄰哉
哉臣哉哉禹曰
俞

帝曰臣朕之股肱
耳目作予有民と
左右せんと欲す
汝翼

予力と四方は宣
んと欲す汝爲

聖典余市

書經卷之一

三十一

君身と動とを帝いとさふ
たり民乃歸とを帝いとさふ
應とを帝いとさふ
○帝曰
吁臣哉鄰哉鄰哉臣哉禹曰俞
君の臣下の民を家と鄰とを帝いとさふ
の守護とを帝いとさふ
○帝曰
予欲左右有民汝翼
の臣下の朕が身の耳目とを帝いとさふ
とて人なり君乃徳と強と直とを帝いとさふ
○帝曰
予欲宣力四方汝爲
又の朕が力と

宣つぐ一中國の民とよく治め一と四方の夷
 かのとくを一一もめぐとおよびさんと欲たり汝
 一と爲るま
 一と尽せり
 ○予欲觀古人之象日
 月星辰山龍華蟲作會宗彝藻火粉
 米黼黻絺繡以五采彰施于五色作
 服汝明
 舜帝いふくかんむりと作ちふこととこ
 くよばたり人間と礼儀とおりと
 礼を君臣父子貴賤高下のとくありと蒙一と以て
 一と衣服のありと人と色とあり古人天
 象よりとたり一と星乃とく又山龍華蟲
 あとと作會をせ一とくもたり宗彝と虎所の
 酒尊たり藻は水のうさ州なり火をりんてんどあり
 りのくをうたり粉米うろこづとあり黼を斧形と
 黻いと人づとたり絺はちつありぬをり續はぬい
 たりりのくさい一きをり以上五一たの彩色をす

予違汝弼汝面從
退さくどきて後言有あり
無な飲みめや四鄰よろ

の色とちり〜衣服格式と〜此〜初めたま〜此〜
 んト乃人ぐちうとらさ
 声八音在治忽以出納五言汝聽
 予違汝弼汝無面從退
 有後言欽四鄰
 予君〜あり上〜て汝の從
 道〜違〜身りちと〜な〜汝とれと強〜正とを
 面〜前〜と〜の場を退〜後より言と

庶頑諂說若時
在不侯以之
明之捷以
識之記書以
欲其哉生
以時而之
賜

庶頑諂說若不在時侯以明之捷以
記之書用識哉欲並生哉工以納言
時而賜之
庶頑諂說若不在時侯以明之捷以
記之書用識哉欲並生哉工以納言
時而賜之
庶頑諂說若不在時侯以明之捷以
記之書用識哉欲並生哉工以納言
時而賜之

格則承之庸之否則威之

右三の教

禹曰兪哉帝光天之下至于海

隅蒼生萬邦黎獻共惟帝臣惟帝時

舉

敷納言以明庶功以車服庸誰敢

不讓敢不敬應

敬應世不

帝時のくく
す敷同くを日
功罔く奏

帝不時敷同日
天子のくくや元より
○帝不時敷同日
天子のくくや元より
○帝不時敷同日

丹朱が傲惟慢遊
惟好傲虐是作
書及く罔領額と

奏罔功
天子のくくや元より
○帝不時敷同日
天子のくくや元より
○帝不時敷同日

行家于朋淫
用て厥世と珍
若くく無

水行舟朋淫于家用珍厥世
丹朱のくくや元より
○帝不時敷同日
天子のくくや元より
○帝不時敷同日

予時の若くく

予創若

創く塗山于娶辛
壬癸甲啓呱呱而
泣予子く弗唯荒
土功と度

時娶于塗山辛壬癸甲啓呱呱而泣
予弗子惟荒度土功
禹又のくくや元より
○帝不時敷同日
天子のくくや元より
○帝不時敷同日

五服と獨成て五
千于至州く十有
二師外四海く薄
咸五長と建各迪
て功有苗頑く
工に即弗帝其念
ん哉

服至于五千州十有二師外薄四海
咸建五長各迪有功苗頑弗即工帝
其念哉
五千里四方と治くく
○帝不時敷同日
天子のくくや元より
○帝不時敷同日

夢日鳴珠と憂擊
 一琴瑟と搏拊
 以て詠ぐれば祖
 考來格す眞實
 位又在郡后德
 讓す

○帝曰

迪朕德時乃功惟叙皐陶方祗厥叙

帝ミカド又またのみづか只ただ吾われをまもりまもるる
と民たみをまもるるの功こうせましまるるを

徳の叙と祗に象刑を
 施せり
 明あり
 夢曰曼擊鳴珠搏

拊琴瑟以詠祖考來格虞賓在位羣

蔓命とくけく泉なつとくく泉和の
徳かんどもいふ堂の上とくくい

磬球の鳴るゝのゝ曼撃て琴瑟を搏拊たりいは樂歌
と奏する声の妙なりと祖考の神明も來格なり
うふふゝゝ眞實とい先のとうと堯の太子丹朱を
眞のみよりを實位の座よりあり羣后辟ぐてゆ

たぐひり礼義と譲あひたり天下の

○下管鼓

祝敵笙鏞以間

鳥獸蹢躅

簫韶九成寸鳳凰

來儀寸夢曰於予

石と撃石と拵

百獸率^{ち、しやうちと}づ^まい舞^{まふ}

度尹允_ふ諸_{しよ}ぐ

石百獸率舞。庶尹允諧。

堂の下へ管
鼗鼓とち〜

又祝とふなりものとりて樂をむしめ哉と

[illegible]

鑲けいめとたひん　二ふり間まをの好このみ樂がくと九くの変へん　一いち

與馬共くハ躍々ウツクテ箭音ヤンの如クナル

成るにや
れりや
冷
工
變
つ
ム
々々々々
ハ
聖
人
の
音
樂
の
妙

予磬石と舟ふでうがひれば百くのみ

そりけもかんぎるなりまゝ元より万民たきとち

かんでぎうんや此よりく度官人の尹政事をとり

えつゝありさまも元より諸ひくは戸さぬ

帝庸作歌帝庸作歌曰曰勅勅天之命勅天之命曰曰天之命曰天之命之之勅勅惟惟時時惟惟幾幾乃乃歌歌曰曰股肱股肱喜喜哉哉元首元首起起哉哉百工百工熙熙哉哉

皋陶拜手稽首皋陶拜手稽首曰曰念念之之率率事率事作作典典之之憲憲與與之之欽欽哉哉屢屢省省乃乃成成

帝庸作歌曰勅天之命帝庸作歌曰勅天之命惟時惟幾乃歌曰股肱喜哉元首起惟時惟幾乃歌曰股肱喜哉元首起

哉百工熙哉哉百工熙哉

皋陶拜手稽首賜言曰念皋陶拜手稽首賜言曰念

哉率作典事慎乃憲欽哉屢省乃成哉率作典事慎乃憲欽哉屢省乃成

欽哉欽哉

臣下臣下

之哉

乃乃庸庸載載歌歌曰曰元首元首明明哉哉股肱股肱良良哉哉庶庶事事康康哉哉

乃庸載歌曰元首明哉乃庸載歌曰元首明哉

股肱良哉庶事康哉股肱良哉庶事康哉

又歌曰元首叢脞哉股肱惰哉萬又歌曰元首叢脞哉股肱惰哉萬

事墮哉事墮哉

帝拜曰帝拜曰俞俞往往欽欽哉欽哉

書經卷之一終

臣下

臣下

三

